

兵庫県立 考古博物館 NEWS Vol. 3



Hyogo Prefectural
Museum of
Archaeology



2009 Spring-Summer



Photo：復元した銅鐸

－ 平成 21 年 －

- 特別展「王朝国家の光芒－各地に花開く宮廷文化－」 2
- 企画展「夏休み・考古学ナゾ解き教室」 3
- ふるさと発掘展「アメノヒボコの考古学」 3
- 実演！よみがえる古代の出土品 4
- 調査研究「古代山陽道の駅家を調べる」 4
- 考古博トピックス「破碎銅鐸のナゾに迫る」 5
- 竪穴住居復元プロジェクト継続中 6
- 赤米で酒を造ってみました 6
- 発掘する博物館のバックヤード見学ツアー 7
- イベントスケジュール 8

特 別 展

「王朝国家の光芒－各地に花開く宮廷文化－」

教科書で平安時代後期のあたりを開くと、「院政」「保元・平治の乱」「平氏」「源氏」といった言葉を目にするでしょう。その時代は貴族の政治が武士に取って代わられた変革期というイメージが強いのですが、平安の王朝文化が爛熟期を迎えて、最後の光芒を閃かせた瞬間でもあります。

今回の展示では、「平安京」周辺に次々と造営された豪華な御所や寺院、その都の文化に負けない華麗な文化が成立した奥州藤原氏の本拠地「平泉」、平清盛が遷都を行った「福原」から播磨にかけての地、などで発掘調査された居館や庭園の出土資料をご紹介します。いわば平安の「三都物語」とでも申せましょう。



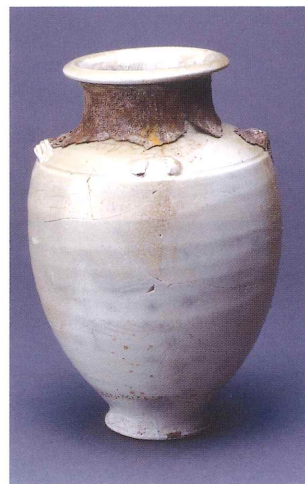
平等院鳳凰堂の発掘調査
(平等院 提供)

平等院鳳凰堂は、藤原頼通が宇治の別荘に築いた阿弥陀堂で、その庭園様式は「浄土庭園」と呼ばれ、後世のモデルとなりました。整備工事に伴う発掘調査で、創建当時の池の様子が復元されています。

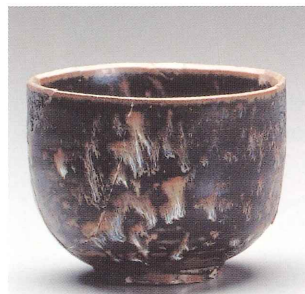


鳥羽離宮金剛心院 鴛鴦文飾金具
(京都市埋蔵文化財研究所 提供)

鳥羽離宮は歴代の院によって建造された宏大な院御所で、離宮内にはいくつもの御所・御堂や広大な園池が設けられました。発掘調査された金剛心院からは当時を彷彿とさせる装飾品が出土しています。



平泉・柳之御所遺跡 四耳壺
(岩手県教育委員会 提供)



祇園遺跡 玳瑁天目碗
(神戸市教育委員会 提供)

奥州を約百年間、三代にわたって支配した藤原氏は、金・馬などの交易で巨万の富を得て、京の文化を移した黄金都市平泉を開きました。中国製の陶磁器類も、大陸から直接輸入したものかもしれません。

日本史上、兵庫県の地域が歴史の表舞台となったことが何度かあり、中でも平清盛による福原遷都はその最たるものです。祇園遺跡の池から見つかった^{たいひてん}玳瑁天^{もく}目碗は全国でも出土例がきわめて珍しいもので、平家一門の関わりを示すものでしょう。

他にも、平家に関係するとみられる居館遺跡が、東播磨地域に点在することはあまり知られていません。この展示を通じて、都から離れた地域の遺跡が中央の歴史の動きといかにつながっていたかを感じ取ってもらいたいと考えています。

(学芸課 中川 渉)

会期 平成21年4月25日(土)～6月28日(日)

(月曜休館。但し5月17日までは無休)

観覧時間：9:00～18:00 (入館は17:30まで)

観覧料金：一般 500円

高校生・大学生 400円

小学生・中学生 250円

※コロナカード提示無料。各種割引あり

企画展

夏休み・考古学ナゾ解き教室

昔の人たちが暮らした跡や使った道具から、その時代の出来事を解き明かす。そんな考古学の楽しさを子供たちに体験してもらう企画です。もちろん大人の方も楽しみいただけます。

今回展示するのは、遺跡から見つかったものや写真など、昔のナゾを解き明かすための手がかりです。「昔の人はどんなものを食べていたのか?」「昔の人はどんな家に住んでいたのか?」などなど、いろいろなナゾの答えを探するのは、展示をご覧くださいみなさんです。

考古学者になりきって、ナゾ解きの楽しさを体験してください。自由に想像をふくらませれば、過去の真実が見えてくるかもしれません。

期間中の日曜日午後は、館内をめぐって答えを探すクイズラリー「謎解きにチャレンジ!」も開催します。夏休みの一日、ご家族でお楽しみください。

会期 7月18日(土)～8月30日(日)

(会期中無休)

観覧時間: 9:00～18:00 (入館は17:30まで)

観覧料金: 通常展示と同額です



(学芸課 多賀 茂治)

ふるさと発掘展「アメノヒボコの考古学」

当館は県内の市町や博物館、埋蔵文化財センターなどと連携して、地域の歴史文化遺産を素材にした「ふるさと発掘展」を開催しています。平成21年度は「アメノヒボコの考古学」と題し、豊岡市と共同で展覧会を開催します。

但馬地域に伝わるアメノヒボコ伝説は、むかしから土地の人々の間で親しまれてきました。アメノヒボコは朝鮮半島から海を渡って日本へやってきた渡来神として、但馬地域を中心に播磨や近江、さらに北陸地方にまでも数々の足跡を残したと伝えられています。

それを裏付けるかのように、「竪穴系横口式石室」と呼ばれる特殊な構造の石室をもった古墳や石囲いをもった土器棺墓、製鉄技術の伝来をうかがわせる砂鉄や鉄製品の出土など、但馬地域からは朝鮮半島との関連を示すものが数多く発見されています。

また、袴狭遺跡(豊岡市出石町)で発見された「船団線刻画木製品」に刻まれた船団の絵は、日

本海の荒波を越えて隣国を目指した古代人の姿を彷彿とさせてくれます。

この展覧会では、但馬地域を中心にアメノヒボコの伝説が残る各地の渡来系遺物を紹介し、伝説との関連をさぐります。はるばる海を越えて日本に渡来し、各地を巡った末に但馬に居を定め、但馬開拓の礎を築いたと伝えられるアメノヒボコへの思いをめぐらせていただければと思います。

(学芸課 藤田 淳)

会期 平成21年7月11日(土)～9月6日(日)

場所: 但馬国府・国分寺館(豊岡市日高町)

関連事業: 豊岡市内や新温泉町で講演会、講座、パネル展、体験イベント、遺跡ウォークを行います。



袴狭遺跡の船団線刻画木製品

実演！よみがえる古代の出土品

発掘調査をすると、地中から当時の人々が使っていた様々な「モノ」が出てきます。土器、石製品、木製品、金属製品などなど……。出土品のほとんどは壊れた状態で見つかるので、ここから先の作業が大変。「出てきた」「見つかった」「おもしろかった」だけでは済みません。

出土品は、祖先が残した貴重な文化財です。公開され多くの人に共有されなければなりません。

そのために次の作業が待っています。

- ①水洗い ②台帳作成 ③接合・補強・復元
④図化・製図 ⑤写真撮影 ⑥原稿作成 ⑦出版

鉄や銅などの金属製品や木製品はそのままでは朽ちていきます。保存のためには化学の力を借りて処理をする必要もあります。

当館では、展示、収蔵といった一般的な博物館機能だけでなく、上記のような調査、整理作業を大規模に行っている、珍しい博物館です。

このたび、実際の出土品整理作業を身近に見ていただける機会を設けました。兵庫県が発掘調査を開始して以来、40年以上にわたる伝統に裏打ちされた熟練の技をぜひご覧下さい。

(学芸課 中村 弘)

実施日 各月第1・第3日曜日

- 時 間：10:00～15:00 (12:00～13:00を除く)
●実施場所：「発掘ひろば」前



調査研究

「古代山陽道の駅家を調べる」

兵庫県内には、古代から「山陽道」と呼ばれる道が通っていました。これは奈良や京都の都と九州の太宰府を結ぶ、いわば古代の高速道路です。この道には馬の乗り換えや宿泊のために「駅家」という、現代で言うとサービスエリアのような施設が置かれていました。

そのほとんどは現在、田畑や住宅地になっていて地表に痕跡を残していません。そこで「地中レーダー」という機械を使って、地下の様子を探ってみることにしました。



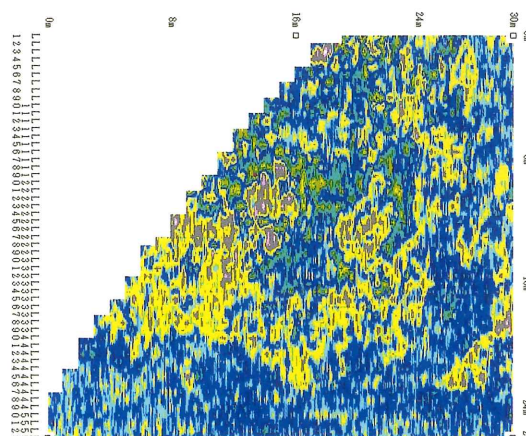
地中レーダーによる探査のようす

調査をしたのは明石市「長坂寺遺跡」^{ちやうはんじ}と加古川市「古大内遺跡」^{ふるおうち}で、かつての「邑美駅家」^{おうみのうま}と「賀古駅家」^{かこのうま}ではないかと言われている地点です。

1月に探査した長坂寺遺跡では、下のような画像が現れてきました。何かに見えませんか？

今回の成果をもとに、両遺跡では今後も調査を進める予定ですので、ご期待下さい。

(学芸課 中川 渉)



長坂寺遺跡のレーダー画像（縦が26m）

考古学トピックス

『破碎銅鐸のナゾに迫る』

弥生時代最大の謎、銅鐸。古くから研究が行われてきましたが、未だに解決できない謎も多く残されています。その一つが「なぜ、銅鐸は使われなくなったのか」です。この謎を解く鍵をにぎるのが豊岡市日高町久田谷（くただに）遺跡から見つかった破碎された銅鐸、「久田谷銅鐸」です。

久田谷銅鐸は弥生時代終末ごろに作られたものです。銅鐸の多くは、欠けることなく完全な形で見つかることが多いのですが、この久田谷銅鐸は5～10cm程度の117片に割られた状態で見つかりました。この銅鐸は偶然壊れたのか、それとも意図的に壊したのか。この銅鐸を調べれば、銅鐸終焉の謎に迫れるかもしれません。そこで今回、実際に銅鐸を復元し、割ってみるという実験を行うことにしました。

2月8日（日）、100名を越える見学者が見守る中、まず、単に叩き割るという方法を試してみました。銅鐸を土の上に置き、カケヤで叩きましたが、「ポコン」という音と共に凹んだだけで、割れることはありませんでした。



次に、銅鐸をたき火の中に入れ、十分ほど熱し、水をかけて急冷させるという方法を試しました。しかし、ジュージューと水蒸気が上がるものの、やはり何ともありません。冷えた後に叩いてみましたが、やはり銅鐸は凹むだけです。

次に、もう一度銅鐸をたき火の中に入れ、同じく十分ほど熱し、今度は冷めないうちに叩きました。「ポコッ」という音がして銅鐸は見事粉々に割れました。金属というより、湿ったせんべいのようでした。見学者のこどもたちにもたたいてもらいましたが、銅鐸は簡単に壊れていきました。



今回の実験の結果、銅鐸は単に叩くだけでは割れず、熱を加えて叩くことで割れることがわかりました。つまり、久田谷銅鐸は弥生時代の不注意者によって偶然壊されてしまったのではなく、壊そうという強い意志のもとで意図的に破壊していたのです。

銅鐸は弥生時代を通してお祭りの中で大切に使われてきました。ところが弥生時代の終わり頃、その大切な銅鐸を火にかけて叩き壊してしまいました。



これは何を意味するのでしょうか。卑弥呼は「鬼道（きどう）」で「よく衆を惑わ」したそうです。鬼道がどういうものかよく分かっていませんが、彼女の鬼道が銅鐸を破壊させたのでしょうか。謎の解明は新たな謎を生み、さらに深まっています。

（学芸課 中村 弘・考古楽倶楽部 潤井真二）

<参考文献>日本考古学事典 三省堂 2002年

<協力>上田合金株式会社

竪穴住居復元プロジェクト継続中

当館のある大中遺跡は、昭和49年の開園以来緑豊かな公園として親しまれてきましたが、遺跡としての活用は十分ではありませんでした。

そこで、新たな取り組みとして、ため池の環境保全や活用に取り組むいなみ野ため池ミュージアム運営協議会、里山を再生し活用を進めるNPO法人ひょうご森の倶楽部、史跡公園を守りながら活用を進める考古博物館とボランティアの考古楽倶楽部、地域活動の取り組みの中で建築について学ぼうとする国立明石工業高等専門学校の4者が連携して、大中遺跡に竪穴住居を復元していこうという、全国でも初めての試みが始まりました。

いちばんの課題は、学説を検証しながら弥生人に可能な建築方法をさぐることに。復元した住居は、大中遺跡で見つかった一辺が5.2mの四角い住居をモデルにしたものです。比較的小型の住居ですが、柱と梁・桁の組み方、茅の葺き方、すべ

てが初めての経験でした。意外だったのは、掘った穴に柱を立てたところ、ほとんどぐらつかなかったことや、垂木を梁にもたれかけさせると予想以上にしっかりしたこと。竪穴住居は思った以上に頑丈なものなのですね。

復元竪穴住居は毎年1棟ずつ建築し、本格的な史跡整備にとりかかるとしています。

(企画広報課 山下 史朗)



15歳～60歳代までさまざまな年齢のメンバーがいっしょにとりくんでいます

赤米で酒を造ってみました

前号(vol.2)でお知らせした赤米づくりは11月に収穫を終えました。試行錯誤の連続でしたが古代人たちの米への“想い”の一端を感じることができた半年間でした。収穫量は今の水準の1アールあたり1/3～1/2の20～35kg。米は土器炊飯や餅つきなどのイベントに使用し、来館された方々に赤米を味わっていただきました。

米の利用方法をみんなで話し合っているうちに、「古代人も酒にして飲んでいたのだろうなあ。赤米で造るとどんな酒になるのかな？」と興味湧いてきました。盛り上がった勢いのまま、「じゃあ、造ってみよう！」ということになりました。

幸いなことに当館の所在する播磨町から東側の地域は西灘と呼ばれる古くからの酒どころ。明石市江井島の酒蔵の協力を得て、赤米酒づくりの挑戦が始まりました。

まず「酒にすること」を目標にしました。江戸時代の製法で四斗樽を使って醸造しました。蒸しから仕込み、そして搾り、最後は瓶

詰めと蔵元の指導を受けながら酒造りに挑みました。12月から仕込み始め、2月には3種類の赤米酒ができました。

「穂摘」(対馬赤米)、「酔故」(種子島赤米)、「あかね空」(紫黒米)と名付けました。「あかね空」は薄紅色の酒になりましたが、2種の赤米の酒は予想に反して琥珀色になりました。

酒は1合瓶で合計583本。3月の竪穴住居復元完成式で披露します。

野生的な味です。

(企画広報課 高瀬 一嘉)



仕込み中



完成した酒

発掘する博物館のバックヤード見学ツアー

兵庫県立考古博物館は、全国でも珍しい埋蔵文化財調査機能を有した博物館です。分かりやすくいえば発掘調査をする人と、その成果を展示する人がいる博物館ということになります。

そこで考え出されたのが出土品の調査研究の過程を見てもらうバックヤード見学ツアーです。展示室にいられたお客様を博物館の舞台裏にご案内します。



出土品整理のようす（バックヤード見学デッキから）

1 毎日変わるバックヤード展示 毎回変わる体験

発掘現場から送られてくる出土品。作業台の上は刻々と変化していきます。これは毎日変わる展示なのです。熟練の技で土器や金属器が復元されていきます。さっきとは違う机の上の風景です。毎日展示替えをする博物館なんて……。私たちの自慢のひとつです。

職員は神経を集中して土器の接合や復元などの作業を行っています。月に1回とはいえ作業室に、お客様に入ってもらおうということは、作業の能率面から決して好ましいことではありません。しかし、あえてこのツアーを行っているのは、バックヤードを公開することで、博物館や考古学に興味をもっていただきたいという熱い思いがあるからです。話を戻します。当館は、その作業をツアー参加者に、体験してもらう試みも行っています。

これまでこのツアーで実施してきたメニューは

- 1) 土器の接合体験
- 2) 拓本体験
- 3) 鉄製品の錆落とし

の3種類の体験です。

これらは毎回、内容を変えて行っています。

「毎月第2土曜日はバックヤード見学ツアーの日」が定着し、それを楽しみにしていただけるお客様の数を増やすことが目標です。

2 こんなところをご案内します(時刻は予定)

紙面上ですが皆様にツアー気分を・・・

受付（～13:30）

メインホールでオリエンテーション

バックヤード見学デッキ（13:35）

遺物整理室と収蔵庫を眼下に学芸員が説明

遺物整理室（13:40～14:15・金属器処理室まで）

主に土器の復元作業を見学

金属器処理室

金属はどのように復元されるのかを見学

収蔵庫（14:15）

出土品はいつでも取り出せるように保管しています

写場（14:15・収蔵庫ツアーがないとき）

遺物を撮影するスタジオの見学

大型エレベーター（14:25）

エレベーター（最大積載量2,500kg）でメインホールへ



本物で「ドキドキ!ピッタンコ」(土器の接合)

3 発掘する博物館の今後

平成20年度は、毎月第2土曜日に開催しました。定員15名のところ、毎回定員を上回るご参加があり、うれしい悲鳴を上げています。バックヤード見学ツアーとは別に、フロントヤード(展示室入口)でも出土品復元の技を公開しています。来館者の質問にもお答えしています。(p4参照)

メインホールの速報展示コーナーでは最新の発掘調査の成果を月替わりで展示していますのでどうぞご覧ください。

(学習支援課 仲田 高幸)

イベント・スケジュール

展覧会	月	学 ぶ	体 験 する
当 館	地方会場	講 演 会	イ ベ ント
3月29日～ 4月12日 「調査速報」 企画展 「兵庫県発掘」	4月	4/5(日) 実演！よみがえる古代の出土品 企画展展示解説 4/11(土) バックヤード見学ツアー 4/12(日) 企画展展示解説 4/18(土) 「弥生時代最大の鉄器工房-淡路・垣内遺跡-」 4/19(日) 実演！よみがえる古代の出土品 ギャラリートーク 4/26(日) 特別展展示解説	4/12(日) ワクワクまが玉づくり 4/26(日) 本格古代組紐講座
4月25日～ 6月28日 特別展「王朝国家の光を各地に花開く宮廷文化」	5月	5/3(日) 実演！よみがえる古代の出土品 特別展展示解説 5/9(土) 「摂津・播磨と平家-福原遷都前夜-」 5/9(土) バックヤード見学ツアー 5/10(日) 特別展展示解説 5/16(土) 「神戸の中世居館と庭園」 5/17(日) 実演！よみがえる古代の出土品 特別展展示解説 5/24(日) 特別展展示解説 5/30(土) 「平泉藤原の栄華物語」 5/31(日) 特別展展示解説	5/2(土) 考古博であそぼう 5/6(水) 5/9(土) 竪穴住居復元プロジェクト2009 開始 5/10(日) 大人のための土器づくり 5/23(土) 共催イベント 歴史ウォーク「平家物語の古跡を歩く」 5/24(日) ワクワク石蔵づくり
	6月	6/6(土) 「京洛の豪奢-院政期の遺跡から-」 6/7(日) 実演！よみがえる古代の出土品 特別展展示解説 6/13(土) バックヤード見学ツアー 6/14(日) 特別展展示解説 6/20(土) 「宴の館-東播磨の庭園遺跡-」 6/21(日) 実演！よみがえる古代の出土品 特別展展示解説 6/28(日) 特別展展示解説	6/14(日) 考古博で古代米をつくらう2009(田植え) 6/19(金) 考古博壁新聞コンテスト表彰式 6/21(日) わくわくガラスまが玉づくり 6/28(日) ワクワク銅剣づくり
	7月	7/5(日) 実演！よみがえる古代の出土品 ギャラリートーク 7/11(土) バックヤード見学ツアー 7/19(日) 実演！よみがえる古代の出土品 7/25(土) 「文化の十字路-弥生時代の播磨-」	7/12(日) 本格古代組紐講座 7/19(日) ナゾときにチャレンジ！クイズラリー 7/26(日) ナゾときにチャレンジ！クイズラリー 7/26(日) ユースセミナーハニワくんをつくらう
7月18日～ 8月30日 「夏休み・考古学ナゾとき教室」 (豊岡市・但馬国府・国分寺館)	8月	8/2(日) 実演！よみがえる古代の出土品 8/8(土) バックヤード見学ツアー 8/16(日) 実演！よみがえる古代の出土品 8/22(土) 「律令時代の土器生産と流通」	8/1(土) 企画展関連事業 古代体験イベント 8/2(日) ナゾときにチャレンジ！クイズラリー 8/9(日) ナゾときにチャレンジ！クイズラリー 8/16(日) ナゾときにチャレンジ！クイズラリー 再現！古代のまじないひとがた流し 8/22(土) 大中遺跡にとまろう 8/23(日) ナゾときにチャレンジ！クイズラリー 8/30(日) ナゾときにチャレンジ！クイズラリー 8/2(日) ユースセミナーまが玉づくり 8/4(火) 教員セミナー 授業に使える古代体験Ⅰ 8/9(日) ワクワク土器づくり 8/20(木) 教員セミナー 授業に使える古代体験Ⅱ 8/23(日) ユースセミナー考古博で写生会 8/30(日) ワクワクまが玉づくり
	9月	9/6(日) 実演！よみがえる古代の出土品 ギャラリートーク 9/12(土) バックヤード見学ツアー 9/20(日) 実演！よみがえる古代の出土品 ギャラリートーク 9/26(土) 「平安京の屋根を葺く-中世播磨の瓦作り-」	9/13(日) 本格勾玉づくり講座 9/19(土) 考古博であそぼう 9/23(水) 9/27(日) 遺跡ウォーク～歩いて遺跡を巡ろう～

毎週土曜日は「石棺に入ろう」、日曜日は「古代船に乗ろう」 14:00～15:00 5月～10月の毎月第2・第4土曜日は竪穴住居復元プロジェクト実施日

■休館日：月曜日（祝日の場合は翌平日）※4月14日～5月17日、7月14日～9月6日の期間は無休。

兵庫県立考古博物館NEWS vol.3 2009 Spring-Summer

発行年月日 平成21年3月16日

編集・発行 兵庫県立考古博物館

〒675-0142 兵庫県加古郡播磨町大中500

TEL.079-437-5589

FAX.079-437-5599

http://www.hyogo-koukohaku.jp

- 電車をご利用の方／JR土山駅南口から「であいのみち」を徒歩15分
山陽電車播磨町駅から喜瀬川沿いを徒歩25分
- お車をご利用の方／第2神明・加古川バイパス明石西ICから約3km
- 駐車場／町営大中遺跡公園駐車場・野添であい公園駐車場をご利用
ください（普通車1回200円）

※団体のお客様でバスでご来館される場合は、あらかじめ博物館にご連絡下さい。



触れる・体感する、考古学のワンダーランド。

兵庫県立考古博物館

